

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田7条6丁目3-15		
自己評価作成日	平成23年11月2日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170200778&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム・ベルⅡは家庭的な雰囲気を大切に、入居者・家族・地域の皆様と、心と心の触れあいを大切に支援させていただいております。
 いろいろな年代の職員が働いており、入居者にとって子供・孫の立場になる事ができます。
 6～9年勤務継続職員がほとんどで、チームケアの大切さを理解しています。
 平成23年1月に移設し、新しいホーム・環境で運営しています。小学校・保育園・高校・児童会館などがあり、毎月、保育園のお誕生会に出席したり、小中学生が来訪して下さったり地域の皆様にもご協力いただいております。
 入居者が穏やかで笑顔で生活ができ、笑い声の絶えないホームを継続できるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設らしくない、家庭的な雰囲気を大切にして、行き付けの床屋に通ったり、老人センターの催しに参加したりなど、従来通りの日常生活ができるように支援している。
 身の回りのお世話だけの介護業務に終始するのではなく、利用者はもとより、家族、地域の人々との心のつながりを重視して、入居に至るまでの家族の苦勞や、悩み、葛藤などを、職員皆が理解し、気持ちが通じ合う関係作りに努力している。
 地域との交流、協力関係が豊かで、多面的な関係が築かれ、地域密着の実態が如何なく発揮されている。町内会の行事への参加、小学校の生活科実習の受け入れ、保育園のお誕生会への参加、児童館の子供たちの来訪など、様々な交流が行われ、利用者を活気づけ、楽しませている。
 職員の年齢層が20代から60代までと幅が広く、利用者にとって、同胞、子ども、孫などのような、さまざまな立場での関係形成が可能であり、しかも職員の定着率が高いことも、利用者との信頼関係を築く上で、大きな強みになっている。
 公園や神社など、環境に恵まれていることもあって、日常的な外出の機会が豊富である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を職員間で作り上げ、玄関フロアやリビングに掲示した上、名札の裏にも記入し、常に再確認している。	3年前に職員自身の手によって、心身の健康の維持向上に努める、利用者・家族・地域の人々との心のつながりを大切にする、という内容の、より簡潔で分かりやすい理念に作り変えた。自己評価の際には、理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事には可能な限り参加。散歩時等のご近所の方と挨拶を交わしたり、また保育園児と小学生と交流がある。地域美化運動に参加し、防災訓練も合同で行いご協力頂いている。	町内会に加入して、道路や公園の清掃、夏祭など、各種の活動や行事に参加しているほか、避難訓練に地域の人々が参加する、近隣の保育園の誕生会に参加する、小学校の生活科の授業に協力するなど、地域との付き合いは積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、防災訓練、感謝祭などに集まって下さった地域の方々や、行事に招いて下さる保育園、児童会館の方々に理解と支援の方法を実践を通じて、活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームからの報告、参加者からの情報、意見、要望を受け双方向的な会議となるように努めている。ホームでの問題点、緊急時の協力、地域交流の確認等、貴重な意見は必ず職員に報告し、サービス向上に努めている。	2か月に1回開催が定着しており、町内会役員、地域の有識者、地域包括支援センター職員、家族などが参加して、施設や利用者の状況、研修会などの報告を行い、活発な議論が行われている。会議の案内は全家族に送られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に来訪時または電話等で、支援の確認や相談、指導を受け、入居者様に反映できるように努めている。	事業所の移転があったこともあり、それに関連する相談や、書式のことなど、市職員とは懇意な関係の中で相談をしている。また、生活保護を受けている利用者が多いこともあって、区的生活保護課との関係も緊密にとられている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けた職員を中心に勉強会を行っている。玄関の施錠は夜間のみで、早朝から解錠している。緊急でやむを得ない場合は、ご家族に説明し同意書をいただいている。	身体拘束に関する外部研修を1名の職員が受講し、それをもとに事業所内で研修会を行った。事業所内に身体拘束委員会が設置され、2か月に1回開催されている。ベッド柵の設置には家族の同意書を得ている。	勉強会はよく行われ、委員会も設置されてはいるが、日々の実践の中で、具体的な可能性や事例の洗い出しや点検を一層強める工夫も期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加して周知、徹底に努めている。虐待が見過ごされることがないように、注意を払っている。事例検討等を行っており、質の向上を目指し取り組んでいる。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に職員が参加し、内部研修を行う。今後も、機会を設け研修を重ね、制度を利用される入居者がいる場合には、アドバイスをし、これらを活用して支援できるように努めようと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は十分に時間をとり、丁寧に説明している。料金面や重度化によるリスク、理念に基づいたケア内容等は詳しく説明し、不安や疑問点を尋ね、納得された上で手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族間で何でも話して頂けるような雰囲気作りに努めて、特に行事や面会時に日常生活状況等をお伝えして職員の方から関わりを持つように努めている。意見や要望等については直ぐ反映できるように努めている。	家族が来訪した際には、職員が必ず面談し、個人記録を見てもらって、意見を求める努力をしている。家族が率直に言いにくい立場にあることを理解して配慮している。家族の中に、介護職関係者が複数いて、率直なアドバイスを受けられる関係も築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含む会議や、個々に意見や提案を聞くようにしており、日頃からコミュニケーションを大切にしている。また1対1になり本音で話ができる機会を設け、代表者の判断により反映されている。	ミーティング、全体会議、カンファレンス、モニタリングなど、多くの場面で職員の率直な意見を吸い上げており、申し送りノートに記載された提案は直ちに管理者の検討に付され、必要に応じて業務改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内外の研修参加職員の努力や成果について把握し、また、個人評価を行い、それらを基に評価している。向上心を持って働けるように、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の他、外部で開催される研修にも参加できるようにシフト調整をし、勤務扱いでの参加とし、職員の向上心を大切にしている。研修会の案内も多く掲示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会主催の研修や同業者の職員研修に参加して、意見交流を行いネットワーク作りに取り組んでいる。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の状況を職員全員が確認し、入居後は担当者を決め、本人の不安・要望などを確認し、話し合いにて安心できる環境づくりを心がけ、他者とのコミュニケーションをとれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていること、不安に思っていることを、話しやすい雰囲気作りをしている。利用者に対して、どのように関わりが必要なのかを家族とじっくり話しを伺いながら、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況をしっかりと受け止め、できることは直ぐに実行する。または、状況によりサービスの提案を行っている。必要に応じて他のサービス機関に繋がられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野で力を発揮して頂けるよう努め、共同作業の場を多く持つように心がけている。喜怒哀楽を共有し、先輩であったり、先生、友達、母、父、子供のように感じ、真に暮らしを共にしている関係づくりを築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が入居したので、ホームに任せます、ではなく行事に参加していただいたり、通院、老人センターへの付き添い、本人と一緒に衣類の整理などもしていただき「いつも傍にいるよ。」との関係を大切にいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	代わって電話をかけたたり、手紙の代筆をしたりしている。電話をかけやすい、面会に来やすい雰囲気作りを大事にしている。送られてきた写真や絵手紙を見せていただき、楽しみを共有し、字を書く練習などもしている。	以前から通い、利用していた床屋、老人センターなどの利用を継続し、時には自宅外泊を奨め、ドライブの途中に自宅や親せき宅、普通っていたスーパーに立ち寄ることもある。墓参、知人の葬式、通夜には家族と協力して参加できるよう、計らっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレク活動など、利用者が楽しめる時間や気の合う利用者同士場面作りや、不仲な利用者には職員が間に入り、孤立してしまうことが無いように、職員が調整役となり関係を支援している。利用者の関係や出来ること、個性を上手く生かせるように努めている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にしながら、電話で様子を伺ったり、または電話を頂いている。時折来訪され、相談を受けており、支援の継続ができるように努めている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の思いや意向を分かろうとする気持ちが必要と考えており、把握に努めている。日常生活の共有する積み重ねから、利用者を観察して、要望や意向を汲みとるように努めている。センター方式を利用している。	些細なことも聞き逃さないように注意を払い、思いを語った時は個人記録に記載して保存する。感情が揺れ動いたり高まったりした場面では、その状況に照らし合わせて思いへの理解を深めている。夜間の独語なども貴重な情報源として注意している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のライフスタイルや個性等、利用者や家族、関係者の方等から聞き取るようにしている。生活のアセスメントは、センター方式を導入しており、記入をお願いして把握に努めている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録に残し、職員間で情報を共有している。利用者の生活リズムに合わせ、日々の生活の中から心身、精神状況を把握し、有する力を見出すように努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、利用者や家族の意見や思いを反映できるように、カンファレンスを開催し意見交換し、利用者主体の介護計画作成に努め利用者、家族に介護計画書を渡している。また、説明、同意を得ている。	本人の意向は、センター方式を活用して、日ごろ把握しており、家族には直接意見を求め、担当職員の他にも複数の職員が関わってモニタリングを行うなど、広く関係者の意見を汲み入れながら、介護支援専門員と計画作成担当者が中心になって、介護計画が作られている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録に、食事、水分、排泄、気づいた事・本人の言葉も等を記載し介護計画に沿ったケアができていないかをチェックしている。ケアが変更する場合はサービス担当者会議等にて変更、直ちに全職員に情報を共有できるように一日2回の申し送りや申し送りノートも使い迅速にできる様に努めている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に応じて、通院や送迎等を必要な支援に対応している。医療連携体制は整っており、訪問診療、看護は24時間体制になっている。経営者は看護師である。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のイベントや保育園や小学校の行事等へも参加している。ご近所の方からも、暖かい声を掛けて頂いたり、見守りや助けて頂いている。				
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の訪問診療の他、利用者や家族が希望する医師の医療を受けられるように、家族と協力して通院介助を行う等支援している。複数の医療機関と連携を結んでいる。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望に従って決められているが、結果としては全利用者が当事業所の協力医をかかりつけ医としており、毎月2回の訪問診療を受けている。従ってすべての利用者について、事業所と医師との情報疎通・連携は緊密である。			

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は常に利用者の変化に気づき、看護師に報告、連絡、相談を行っている。経営者が看護師で、また隣接した同経営者のグループホームに非常勤の准看護師を配置しており、利用者の状況に応じた対応を支援している。また、医療連携により適切な対応で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法を医療機関に情報を提供したり、できるだけ日常生活、リズムが、変化しないように支援して頂けるように努めている。必要な物については本人が不便のないように直ぐ届けたり、面会も随時行っている。家族、医療機関と連携をとれるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人や家族の考えを伺い、事業所としての緊急時の対応や重度化した時の対応を伝えている。また必要時には書面で交わしているが、本人の気持ちを一番大切に、その都度家族と話し合いを行い、家族の考えを確認して支援している。	入居時に、重度化した場合の対応指針に署名捺印で同意を得ている。終末期の看取りについては口頭で説明するとどめ、時期が近づいた際、改めて書面での対応を確認している。代表者が看護師であることもあり、看取り介護は可能な体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修をうけており、事故発生に備え、マニュアルを作成して周知徹底をしている。急変時に備えて必要な物を保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練はもちろん、自信時の避難、津波時の避難訓練等を行い、地域の方にも参加し協力していただいている。参加できなかった職員にも文章や映像(ビデオ)にて勉強している。	火災、地震、等を想定した防災訓練を、都合年に3回実施している。消防署の指導を受け、町内会関係者、近隣住民、消防団の参加・協力を得ている。自動警報装置は8か所に通じ、スプリンクラーも設置されている。非常用備品の備えもできている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプランに基づき、一人ひとりの人格を尊重し、職員同士で言葉賭けに注意をしながら対応をしている。	利用者一人ひとりの生育歴や個性を重んじ、言葉かけやコミュニケーションのとり方など個別に考えながら、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を否定せず、まずは耳を傾けるように心掛ける。利用者へ分かり易い言葉で声掛けて、日々の暮らしの中から、思いや希望等を把握できるように努めている。行動や判断ができるように見守り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ、状態や要望に配慮しながら個性のある支援に努めて、その人らしい自由な生活ができるよう、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを利用者の希望を伺いながら、支援している。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考え、気持ちに沿った支援を心掛けている。ほぼ毎月の訪問理美容や、近隣の理髪店の利用も支援している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事形態を理解している。利用者の希望やADLに応じて手伝って頂いている。会話もきっかけを作り楽しく食べる事ができるように支援している。食器拭きは利用者をお願いをしている。	献立は利用者の希望や嗜好を取り入れて、職員が作成し、個別に刻みなどを配慮して調理している。昼食は特に利用者が加わって準備し盛り付けなども上手にされている。片付けは交代で利用者も率先して協力している。食卓の配置にも工夫があり、楽しい場になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の言葉や表現から、食事量や嫌いな物を把握した中で一日に必要な栄養摂取量、水分量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、利用者の個々の能力に応じた支援をしている。訪問歯科・医療連携歯科などの連携も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の身体能力により個々に対応している。尿意や便意のある利用者は都度対応し、排尿間隔や排泄パターンのある利用者にも随時対応している。排便はトイレで排泄できるように支援している。	利用者の排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでできるように支援している。夜間はポータブルを利用したり、オムツを使用したりなど、個々に工夫して支援し、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や室内外での歩行を行い、朝はカスピカイヨーグルト、繊維質の多い食材を調理に取り入れ軟菜、果物を充分摂取するように努めている。毎日の排便チェックを行い、便秘時は医師の指示により下剤を服用する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、昼食後利用者の体調や入浴確認の上、一人ひとりの湯加減を聞き、希望に沿って温度調節を行ない入浴してもらっている。また、職員との大切なコミュニケーションの時間とともえ普段は話づらい事や相談などをうちあけていただける機会になるよう雰囲気作りを行っている。重度化している利用者は職員2名体制で安全に配慮している。	最近、事業所が一階から二階に移動したため、浴室の使い勝手が変わって、工夫の余地も出てきたところであるが、利用者が大好きな入浴が継続できるように様々な対策を検討中である。各人週2度の入浴を目的に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量や昨晚の睡眠状況を把握し、午睡を勧める事もある。夕方からはゆったりとした雰囲気を作り、温かい飲物を勧めるなど、その方のペースを大切に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤情報書は処方ごといつでも目を通せるようファイルに入れ、服薬内容について職員理解している。内服の変更時は朝・夕の送り時に確認し、申し送りノートにも記載し再度チェック、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を活かせるように縫い物、ハサミでのカット、皮むきなど、一人ひとりの生活歴を把握し行っていただいている。負担にならない程度でお願いし、感謝の言葉を添え支援している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調、状況に応じて散歩している。歩行が困難な利用者が安心してイベントに参加できるように大型バスを利用して支援している。花見、イルミネーションや雪祭りはほぼ全利用者が参加し、家族の同行も可能で声かけしている。	行事計画は毎月のように屋外へ出かける取組みをしている。お花見、遠足、イルミネーション見学・雪まつりなど冬期間でも利用者本位に実施している。近くの保育園には毎月のように出かけている。また、個別にも美容室や老人センターなどへ同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等の希望もあり、通常はホームで預かっているが、行事などでは一人ひとり財布を持って買い物をするようにし、お金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかける事ができるようにしている。利用者の希望時はすぐ使用できるように、電話と携帯を用意して自分の部屋でかけることもできる。手紙が読めない利用者に代読の支援し、「手紙が書きたい」と希望があれば職員も一緒に寄り添い代筆支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った利用者が作った壁掛けが季節感をだし、ベランダから花や小学生の登校風景や保育園児の散歩や挨拶などを外観を眺められる大きな窓があり、開放的になっている。活動しやすい室温で臭いも無く、ゆっくり過ごせるように配慮している。室内にも花や緑があり、掃除も毎日行って家庭的雰囲気を大事に支援している。	事業所は新築で気持ちがよく、一階から二階に越したばかりだが、落ち着いて既に馴染みの居場所になりつつある。居間兼食堂を中心に、台所から全体が見える位置にあり、利用者にとって不快や混乱のない場になっている。室内に鉢植えなどを置いて、緑が家庭的な雰囲気をだしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルはゆったりと座れるように確保しており、杖の保管場所や身体にあった椅子とテーブルで生活している。長椅子はテレビの周りや離れた所にも設置しており、その時々で思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や孫の写真や装飾品、使い慣れた家具など家族と相談しながら、介護度が増しても、「ここは自分の部屋」と認識が保て、居心地良く安心して生活ができるように配慮している。	使い慣れたベッドを置いて、自分なりの飾りや家具で特徴を活かし、安全を考慮した居室になっている。家族の協力を得て、居心地良く過ごせるようになっている。入り口にはそれぞれ違った暖簾をさげて、判りやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関は座って靴が履けるように椅子があり、全館バリアフリーになっている。トイレや浴槽は手すりを設置し、また、洗濯物干しは座って出来る高さにする事で、自立して生活ができるように努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム・ベルⅡ

作成日：平成 23年 12月 22日

市町村受理日：平成 23年 12月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束委員会も設置し、開催もしている。日々の実践の中で、具体的な可能性や事例の洗い出し・点検を一層強める工夫をしたい。	改めて身体拘束についての勉強会を開催し、毎日のケアの中で、具体的な事例を洗い出し、点検を一層強める工夫をする。	言葉での拘束、職員の態度による拘束など、もう一度勉強しなおし、職員同士で具体的に話し合い、身体拘束に繋がらない様にチェックしあう。	6ヵ月
2	13	法人外の研修に多数参加しているが、研修報告が密にできていないことがある。	法人外の研修に参加し、研修報告時間を確保し、職員、家族、地域の皆様に情報を流す事ができるような取り組みをする。	法人外の研修に参加した場合は、必ず研修報告を行い、職員で情報を共有し、入居者の支援に繋がるような取り組みを行う。家族、地域の皆様にも必要な情報は、文章や、運営推進会議等で伝え、情報の発信源になるよう努力する。	6ヵ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。